

科学技術人材育成コンソーシアム

■ 会 員

コンソーシアムの目的に賛同して主体的にその活動に参加する団体。

当面は、理工系学協会に対して参加を募り、順次、産業界などへの拡大を図る。

■ 協力会員

コンソーシアムに協力し、支援を行う産官学などの団体。

コンソーシアムの目標と活動

我が国の産業・社会基盤を支える科学技術人材の育成と社会での活躍を促進することは、国民生活を豊かにし、我が国の国際的な地位を確保・向上するための必須の課題である。

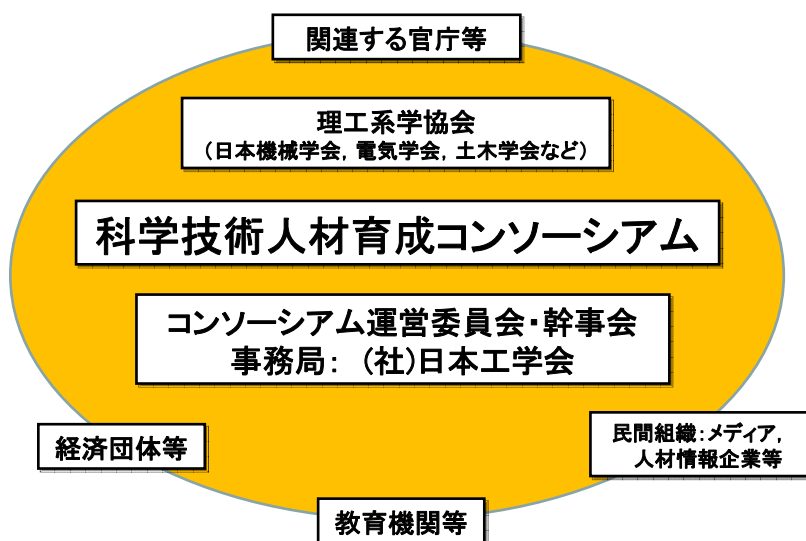
この目標を達成するために、産官学の関連組織の協力により、以下の活動を企画実施するコンソーシアムを設置する。

1. 科学技術人材、特に技術者の社会的使命や役割に対する国民の理解を促進する。
2. 我が国における科学技術人材、特に技術者や研究者を育成する教育環境の改善を図る(特に、初等中等教育)。
3. 若者の職業選択、人生設計における有力なオプションとなるよう、技術者のキャリアパスを「見える化」するとともに、労働環境の改善を図る。

コンソーシアム運営体制

1. 会員：学協会など
2. 日本工学会内に連絡協議会を置く
事務局は日本工学会内に置く
3. 当面は下記組織で幹事会を構成：
日本工学会，日本機械学会，電気学会，土木学会，日本化学会，日本鉄鋼協会
4. 課題別作業部会：
企画実施（部会委員は，参加組織から推薦，あるいは依頼）
5. 運営経費
当面は，会員からの分担金と官からの委託金を期待
その後は，会員からの分担金を考える

理工系人材の裾野の拡大に取り組む体制



平成22年度活動としての検討項目

当面の緊急課題:若者の技術への無関心・理工学離れへの対応

- 技術者・研究者への理解促進, 関心誘起, 進路選択支援のための活動
- 日本機械学会, 電気学会, 土木学会, など学協会組織による活動、情報の共有、連携
- 各学協会本部・支部と各経済産業局・地方整備局・教育委員会との連携で、初等中等教育におけるプロモーション諸活動を企画, 実施
- キャッチフレーズの選定と産官学での共通使用
- 技術カレンダー, 技術・工学パンフレットの作成と初等中等教育現場への配布
- ヤングエンジニア資格認定, CPDポイントの標準化

(*)先進取組団体:協和発酵, シャープ, 京都市, 横浜国立大学, 群馬大学 等

コンソーシアム組織化のスケジュール

- 平成21年9月
関連団体有志によるコンソーシアム幹事会
コンソーシアムの目的, 組織, 活動について明文化
- 平成21年10月
発起人組織の参加内諾
日本工学会理事会における意思決定
- 平成21年11月13日
コンソーシアム構想発表(日本工学会130周年式典にて)
会員および協力会員の募集
- 平成22年5月
コンソーシアム設立総会(次年度活動計画など)